



Japan Healthcare
Business Contest

2022

主催：経済産業省 協力：厚生労働省

Healthcare

ジャパン・ヘルスケア
ビジネスコンテスト 2022

2022年1月14日 (金)

大手町三井ホール

ご挨拶

我が国は、世界に先駆けて超高齢社会に突入し、社会保障費の増加や、生活習慣病や認知症の患者数の増加、医療格差、介護施設または人材の不足等の社会的な課題が現実となっており、それらの課題を解決し、国民の健康に対する多様なニーズに対応する新たなヘルスケア産業の継続的な創出と発展が必要となっています。経済産業省では、ファンドや民間事業者等の『サポート団体』や『連携イベント』等とネットワークを構築し、それらと連携しながら、優良事例の顕彰等を通じて、事業の拡大及び事業創出に必要な資金を供給につなげることを目指しています。

こうしたヘルスケア分野におけるエコシステムの構築を目的として、「ジャパン・ヘルスケアビジネスコンテスト」を開催しています。本コンテストを通じて、社会課題を解決するヘルスケアスタートアップ等の自律的かつ持続的な成長を促していきます。

経済産業省 商務・サービスグループヘルスケア産業課

Healthcare



Japan Healthcare
Business Contest

2022

目 次

ご挨拶	P02
目次	P03
イベントプログラム	P04
会場案内	P05
 アイデアコンテスト部門 ファイナリスト事業内容概要	P06
 ビジネスコンテスト部門 ファイナリスト事業内容概要	P11
審査員	P17
パネルディスカッション	P18
サポート団体	P19
連携イベント	P24
Healthcare Innovation Hub について	P26

Healthcare

プログラム

Program

オープニング

13:00 ~ 13:10

アイデアコンテスト部門

ファイナリスト プレゼンテーション

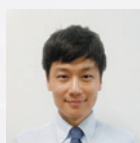
13:10 ~ 14:25



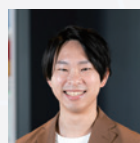
高垣内文也



鈴村萌芽



首藤剛



稲垣大輔



大西徳幸

休憩

ビジネスコンテスト部門

ファイナリスト プレゼンテーション

14:35 ~ 16:05



ライトタッチテクノロジー株式会社
山川考一



株式会社 Liquid Mine
岸本倫和



株式会社
レナートサイエンス
長谷川 雪恵



TXP Medical 株式会社
園生智弘



株式会社
iMed Technologies
河野健一



株式会社
Raise the Flag.
中村猛

休憩

パネルディスカッション ～ヘルスケアの最前線を問う～

16:15 ~ 17:05

青木 武士 株式会社キャピタルメディカ・ベンチャーズ 代表取締役
杉本亜美奈 fermata 株式会社 CEO
福島 智史 株式会社グロービス・キャピタル・パートナーズ ディレクター
本郷 有克 株式会社慶應イノベーション・イニシアティブ 執行役員
上田 悠理 Healthtech/SUM 統括ディレクター (メドピア・日経新聞共催)
(モデレーター) 株式会社Confie 代表取締役社長 医療法人向生會 理事長

休憩

グランプリ発表・表彰式

17:15 ~ 17:40

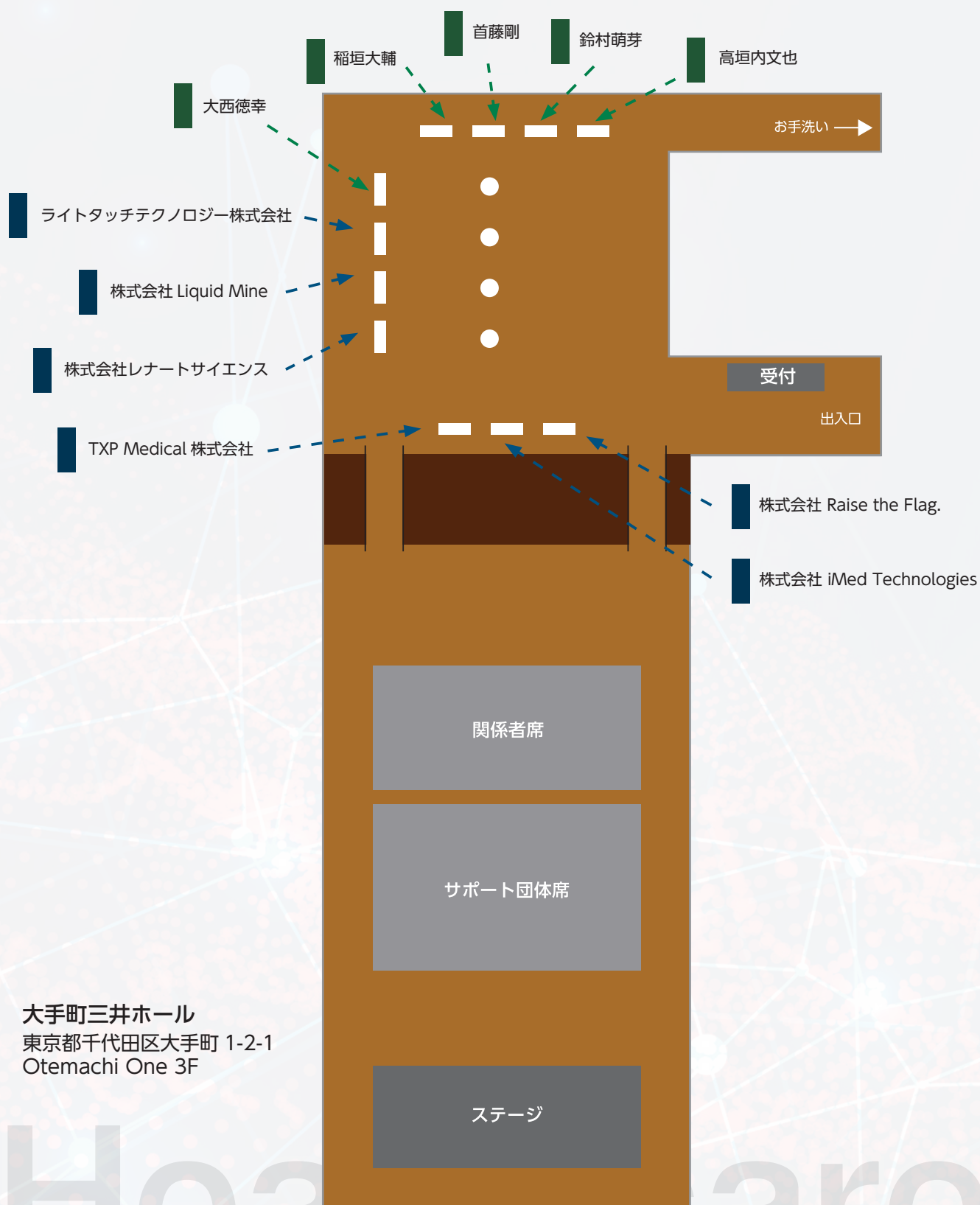
クロージング

17:40 ~ 17:45

Healthcare

会場図

Venue



大手町三井ホール
東京都千代田区大手町 1-2-1
Otemachi One 3F

Healthcare

高垣内文也

「くうかい」 若者／ヤングケアラーの未来をつくる ケアラーをつなぐプラットフォーム

ヤングケアラーや若者ケアラーという言葉は聞いたことがありませんでしょうか。

昨今、メディアなどで取り上げられたり流行語大賞にノミネートされたりと注目されることが増えているように、日本のみならず世界でも非常に大きな社会問題だと言われはじめています。

ケアラーは、その状況によって課題は様々です。ただし、多くの人に共通しているのは、「話し相手がいない」、「話しても理解されない」ということです。

人は、話を聞いてもらえるだけでも楽になります。しかしながら、介護をしながら適切な相手を見つける方法は限られています。

「くうかい」は、「話をしたい時に話を聞いてもらえる場所」を提供し、ケアラーの方が介護の悩みから、少しでも開放されるひとときを提供できたらと考えています。



氏名 高垣内文也
Fumiya Takagaito



「くうかい」
若者/ヤングケアラーの未来をつくる
ケアラーをつなぐプラットフォーム

Our Mission, Our Vision

Mission : 若者/ヤングケアラーが、ケアラーであることが理由で自分の夢をあきらめることのない世の中をつくること

Vision : 今苦しんでいる人々を救うために、話を聞いてほしい時に気軽に話を聞いてもらえる社会へ

外資系製薬会社にて主に営業・人事の仕事をした後、現在は内資系製造業にてヘルスケア関連の新規事業企画を担当。
ケアラーとして、大学2年生から計7年間、アルツハイマー型認知症の祖母の介護を行う。

Healthcare

鈴木萌芽

学生と福祉に特化した情報サイト「musbun」 ～福祉体験を通して学生と福祉施設をむすぶ～

『福祉人材不足を解消し、福祉に関わる全ての人に笑顔を!』

2025年に43万人、2035年に79万人以上の福祉人材が不足すると予測されており、必要な福祉を受けられない社会が間近に迫っています。その対策として、福祉事業者や行政、学校、民間が総力を挙げて福祉系学校への進学、福祉分野への就職や定着、復職等を推進されています。

私は福祉人材を増やす入口である、福祉に興味を持ち体験してみる学生を増やすことが、様々な対策の効果を最大化する起爆剤になると考えました。その観点でヒアリングを重ね、福祉に関心があるがなかなか行動に移せない学生と、たくさんの学生と繋がりたいが有効な手段がない福祉施設の存在に気づき、この両者を効率的にむすぶために福祉、学生、体験に特化した情報サイト「musbun」を立ち上げます。

福祉体験を通じて福祉の道に進む学生が増え、福祉人材不足を解消し、福祉に関わる全ての人に笑顔を!



氏名 鈴木萌芽
Moemi Suzumura
所属 株式会社 musbun
役職 代表

愛知県の大学4年生（サービス立上げのため休学中）。小さい頃からたくさんのお年寄りに可愛がってもらいながら育ちました。いつか恩返ししたいという思いから、福祉のボランティアに参加しました。そこで福祉人材不足の深刻さを痛感し、この問題の解決に貢献することが自分のなすべき恩返しだと思うようになりサービスを立ち上げました。

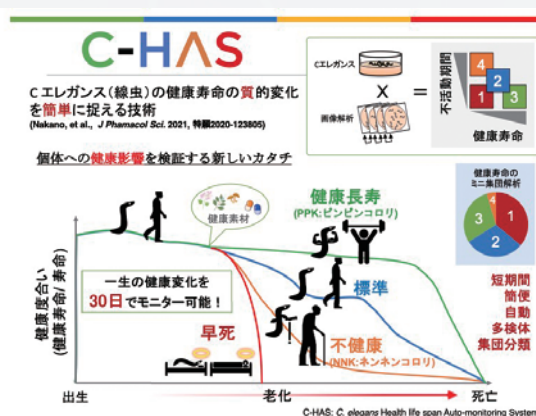
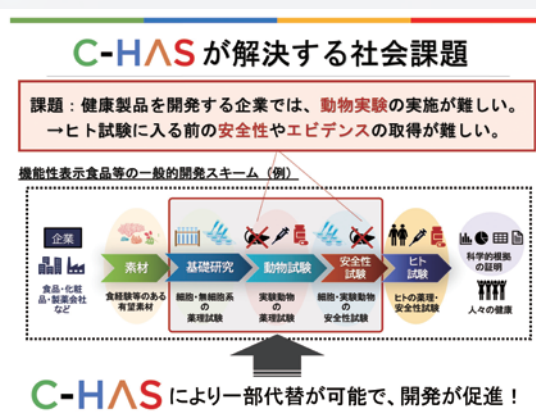
Healthcare

首藤剛

Cエレガンスを利用した新規評価手法で挑む健康素材の開発

現在、世の中は空前の健康志向ブームであり、健康をテーマにした食品・化粧品・製薬会社は増加の一途をたどる。従来、このような健康関連企業の製品開発では、ヒト試験の前に、愛玩動物（マウス、サルなど）を用いた実験が必須とされてきたが、現在、動物愛護やSDGsの観点から、その代替技術が求められている。また、そもそも、健康社会の一助となる食財やサプリメントなどは、その機能性がわかっているにもかかわらず、当該素材が持つ健康寿命の延伸能力を評価することはできなかった。

私たちは、ヒトの健康を反映する実験動物、Cエレガンス（線虫）を活用した健康寿命の見える化の新技术 C-HAS を開発した。C-HAS は、特許・ノウハウに強みを持ち、その活用で、企業等が有する素材や、新規素材の健康延伸力評価が可能となる。結果、C-HAS は、脱動物実験や健康付加価値の向上を期待する健康関連企業のニーズに応える、極めてユニークな健康新事業となる。



氏名 首藤剛
Tsuyoshi Shuto

所属 熊本大学
役職 准教授

大分県出身。熊本大学大学院修士課程時代に海外留学を経験し、国際視野を涵養。現在、熊本大学薬学部の天然物もの・こと作り事業 UpRod のプロジェクトマネージャーを兼任し、基礎研究と社会実装化の両利き経営を実践中。最近、Cエレガンスを利用した素材の新規評価技術 C-HAS を開発し、事業化に向けて邁進中。

Healthcare

稲垣大輔

日本の臨床工学技術で開発途上国医療を支援する 医療機器管理・教育システム

開発途上国では、ずさんな医療機器管理が原因で、医療機器のトラブルや不具合が発生しています。その結果、医療ミスや医療事故が多発し、人が命を落としている事を皆さんはご存じですか？

私たちは、SDGs 目標3「すべての人に健康と福祉を」を実現するため、日本が誇る臨床工学技術を輸出する事で、開発途上国の医療を支援する事を考えています。その医療支援を実現するアイデアが、私たちが開発を行っている「医療機器管理・教育システム」です。多国籍言語に対応し、シンプルかつ分かりやすい、誰もが使える仕様を構築していきます。

また、莫大な医療機器使用に関連するデータをシステムから抽出・活用することで、更なる医療技術発展や持続的な医療体制構築を実現します。臨床工学技士の知見やノウハウを活用することで、生まれた国に依らず、医療の安全と質が担保された世界を実現していきます。



氏名 稲垣大輔
Daisuke Inagaki

所属 神奈川県立保健福祉
大学大学院ヘルス
イノベーション研究科

神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科
修士課程2年

東京大学医科学研究所附属病院所属 臨床工学技士

開発途上国へのボランティア活動を通して、開発途上
国の医療を「システム・自動化」で支援することを志す。
生まれた国に依らず、医療の安全と質が担保された世
界を目指している。

Healthcare

大西徳幸

革新的がん検査技術の開発

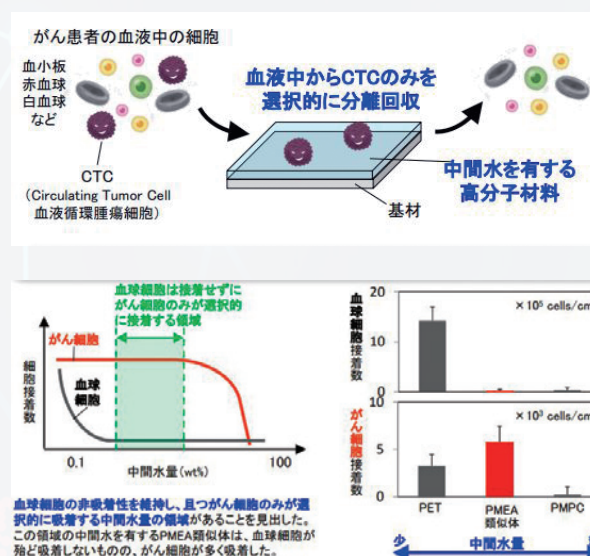
～汎用プラスチックでがんの恐怖を無くす～

中間水コンセプト※を用いて、様々ながん細胞と特異的に吸着するプラスチック (PMEA) を発見した。

更にPMEAに吸着 (分離) したがん細胞は、その培養も可能であった (免疫沈降法等、従来技術では困難)。このPMEAの特性を最大限に活かせるビジネスとして近年、リキッドバイオプシー (液体生検) として注目されている血中循環がん細胞 (CTC) の分離剤の開発に着手した。

今後はパートナー企業を探しながら、本分離材を用いた超早期がん検査薬、抗がん剤感受性検査薬、がん転移検査薬の開発を行い、がん検査、がん治療の分野で破壊的イノベーションを起こしたい。

※中間水コンセプト：細胞やタンパク質等の表層に存在するエントロピーの低い水 (中間水) が分子間相互作用 (生体親和性) の最上位の因子であるとした概念。器材表面の中間水量を制御する事により、がん細胞を含めて様々な細胞を選択的に吸着 (分離) することが可能になる。



氏名 大西徳幸
Noriyuki Onishi

神戸市出身。神戸大学大学院後期博士課程修了 (工学博士)。1987 年 JNC (株) 入社。
神戸大学、NEDO で数多くのスタートアップ支援を行い、自らも産学ジョイントベンチャー (マグナビート (株)) を設立 ↑ (あえなく 5 年で倒産 ↓)。特許登録 40 件以上。10 年間の反省期間 ↓ を経てアントレプレナー側でカムバック！

Healthcare

ライトタッチテクノロジー株式会社

糖尿病重症化予防のための 非侵襲血糖値センサーのサービス展開

生活習慣に影響される糖尿病は、国民の健康寿命延伸を阻む大きな要因となっており、国内では予備軍も合わせると患者数が 2,000 万人を超える重大な疾患である。

しかし、血圧測定等と異なり、自宅で簡易に、侵襲性なく、正確に血糖を測定する医療機器が市場に浸透しておらず、非侵襲の血糖値センサーの早期の実用化が待たれている。なかでも 1,000 万人ともされる境界型糖尿病の方は、糖尿病発症の確率が健常者の 6 ～ 20 倍と高率でありながら自覚が低い。

そこで日々血糖測定を行う習慣のない境界型糖尿病の方々がひろく生活の中で疾患の予防、早期発見を行い、また適切に管理することを助ける非侵襲型血糖値センサーの開発とそのサービス展開を行う。これにより、医療費、介護費の削減を促進すると共に、新規市場の創出による市場規模拡大をめざす。



氏名 山川考一
Koichi Yamakawa

所属 ライトタッチ
テクノロジー株式会社

役職 代表取締役

大阪大学大学院工学研究科博士後期課程修了、博士（工学）。現在、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構レーザー医療応用研究グループリーダー。最先端レーザーの研究開発に従事。世界で 4 億人を超える糖尿病患者の採血による苦痛をなくすため、非侵襲血糖値センサーの実用化に挑戦するライトタッチテクノロジー株式会社を 2017 年に創業。



Our Mission/ 光を自在に操り、人々の健康と豊かな社会を実現する。

世界で 4 億人を超える糖尿病患者は、1 日 4-5 回、指などを針で穿刺する自己検査用血糖測定器を用いて血糖値を測定しなければならず、痛みや精神的ストレス、さらに感染症の危険を伴うなどの多くの問題をかかえている。針を刺さず（非侵襲）に血糖値測定ができれば、患者の負担を大幅に低減でき、かつ、従来測定が困難であった食後血糖値スパイクなどが気軽に測定することができ、糖尿病予防にもつながる。

株式会社 Liquid Mine

白血病の再発を早期に発見するモニタリング検査

白血病は「血液のがん」で、過去には不治の病として恐れられていました。2019年の国内白血病新規発症者数は約14,100人、国内白血病死亡者数は約8,800人となっており、致死率の高い疾患です。白血病は再発のリスクが高い疾患で再発率は約70%です。また、再発症例は極めて予後が悪く、白血病再発症例の死亡率は約70%となっております。いかに再発させないかという治療戦略が非常に重要となってきます。

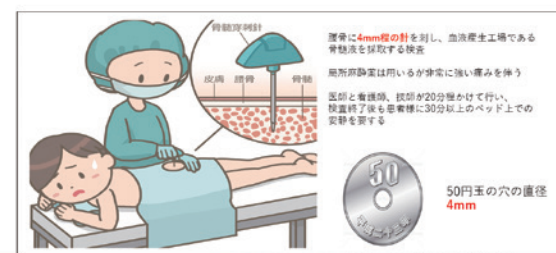
現状でも再発モニタリング検査はありますが、課題が2つあります。

1. 受けられる患者様が少ない(約30%の患者様にしか適用ができない)
2. 患者様の身体的負担が大きい(骨髄検査を受けなければならない)

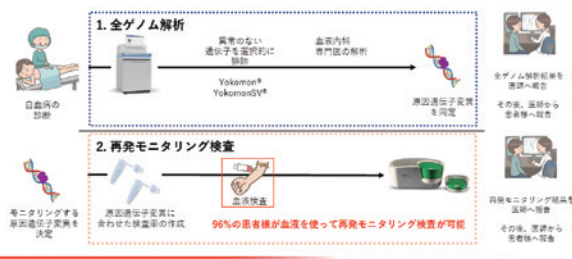
弊社の技術は96%の患者様が血液を使って再発モニタリング検査が可能であり、81施設112名の医療機関の先生方からも白血病患者様の「生活の質」を高めてくれる技術だと、高い評価を受けております。



骨髄検査は医師、患者様ともにやりたくない検査



白血病の再発を早期に発見するモニタリング検査



氏名 岸本倫和
Tomokazu Kishimoto
所属 株式会社 Liquid Mine
役職 代表取締役社長

大学卒業後、新卒で大手旅行会社へ入社
その後、製薬会社、医療系ベンチャー企業等で多くの
営業経験を積む
2020年7月に株式会社 Liquid Mine に参画、2020
年11月より代表取締役社長に就任
弊社の技術を社会実装して、多くの白血病に苦しむ患
者様を助けたいという強い想いで事業を進めている



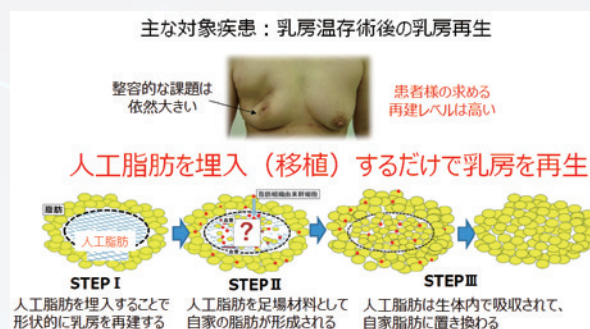
設立：2019年11月7日
代表：岸本倫和
本社：〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-10-8
電話番号：03-6416-4809
従業員数：15名(役員・社員・アドバイザー・業務委託含む)
資本金：31,042,873円
ホームページ：http://www.liquidmine.co.jp

株式会社レナートサイエンス

人工脂肪を活用した乳房再建の実現

乳がん切除後乳房再建は、自家複合組織移植（患者の背中やお腹の筋肉と脂肪組織、またはお腹の脂肪組織を乳房に移植）、シリコンインプラント埋入のいずれかで行われています。自家組織採取では手術侵襲等、インプラントでは悪性リンパ腫等の発生が課題となっています。

本プロジェクトでは、乳房再建手術を考える女性に幸せな人生を提供するため、乳房再建・豊胸手術市場で世界初の人工脂肪の実用化を目指します。数年かけて生体内で分解吸収され自家脂肪に置換される低侵襲・整容的にも優れた人工脂肪（コラーゲンスポンジをポリ乳酸縫合糸で作製したメッシュ内に挿入した二重構造を持つ生体吸収材料）は、安全性も高く、患者満足度の高い理想的な乳房再建方法となりえます。



氏名 長谷川雪憲
Yukinori Hasegawa

所属 株式会社
レナートサイエンス

役職 代表取締役

日立製作所、三菱電機で医療情報システム構築に従事。その間、阪大院医核医学講座・臨床医工学センターで核医学の研究を行う。その後、京大 MBA でアントレプレナーの研究、イーパスでは起業支援を行う。2021年8月にレナートサイエンスを起業し、京大病院形成外科研究員も兼任。京大院工、阪大医学博士。



現在の乳がん切除後乳房再建・豊胸手術における課題に苦しむ患者さんや医師に対して、低侵襲・整容的にも優れた人工脂肪という革新的な解決策をもたらすというミッションを掲げ、2021年8月に株式会社レナートサイエンスを起業しました。乳房再建・豊胸手術を通じて、幸せな人生を送っていただく、それがレナートサイエンスの願いです。現在、人工脂肪を2028年度に薬機法 class IV の取得、上市を目指しています。

受賞歴：メドテックグランプリ KOBE2020/ 滋賀テックプラングランプリ 2021 企業賞等。

TXP Medical 株式会社

救急医療 DX の現在の課題とその解決。 将来の医療データによる意思決定実現まで

デジタル化によって医療のさまざまな課題が解決できると思われています。しかし、2006 年から変わらない課題を抱える救急医療。今回のコロナウイルス感染症の流行が、改めて課題を浮き彫りにしました。TXP Medical は、自社の技術力を活かし、1分1秒を争う現場に寄り添った救急医療 DX を提供し、社会課題の解決に取り組んでいます。

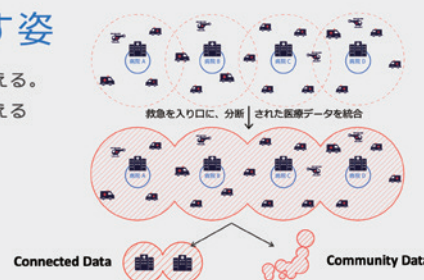
更に、リアルタイムの救急現場でのデジタル化によりこれまでの機会損失を改善します。具体例として、急性期治療患者リクルート。脳梗塞や心筋梗塞と言ったいつ発生するか予測不能な患者の治療は、通常の治療と異なり、日本では困難を極めています。その結果、創業は遅れ、日本は世界から取り残されていきます。

TXP Medical は救急搬送時から現場でのデジタル化により得られたデータから早期の患者集積に介入し、飛躍的な患者集積スピードを実現し、日本の医療の発展に貢献します。



目指す姿

救急を、変える。
救急が、変える



氏名 園生智弘
Tomohiro Sonoo

所属 TXP Medical 株式会社
役職 代表取締役医師

東京大学医学部卒業。救急科専門医・集中治療専門医。臨床業務の傍ら、急性期向け医療データベースの開発や、これに関連した研究を複数実施。自身で開発した救急医療情報システムNEXT Stage ERを中心に事業化。医療現場における適切な IT の活用に関して学术界・産業界に積極的な発信を続けている。



救急医療における業務効率化を目的とした病院・救急隊向けデータプラットフォームの提供を軸としつつ、本 PF 及びデータを活用したライフサイエンス産業向けのサービスも行っています。救急現場における様々なデータを発生源で自動で構造化、各病院・救急隊間でのデータ連携により救急業務の効率化と質の向上を実現。収集されたデータは臨床研究にも活用可能。救急現場で普段使いされる NS シリーズのデータはこれまでデータ化／構造化されていなかった情報。これらを活用し、急性期治療をはじめとする医薬品開発業務を支援します。

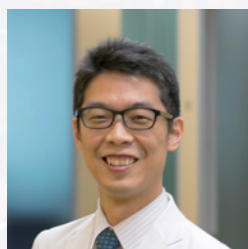
株式会社 iMed Technologies

脳血管内手術の安全性を向上させる手術支援 AI

当社は脳梗塞やくも膜下出血などに対する脳血管内手術（カテーテル手術）を支援する手術支援 AI（医療機器）を開発するため、2019 年 4 月に創業した。

代表の河野は脳血管内手術医師として 16 年間この手術を行ってきた。この手術は 4 つの画面を見ながら行われる。同時に複数の部位に注意を払う必要があるため、手術中の見落としで死亡につながる事故が起こっている。代表の河野自身も手術現場で危ない体験をしており、他の医師が同様の経験をした場面も目している。

この課題を解決するため、複数の病院と提携し、100 万枚の手術画像を用いて、ディープラーニングによる開発を行っている。累計約 2.5 億円の資金調達を行い、スタートアップとして NVIDIA、Microsoft、東大 IPC、IPAS（特許庁）などから支援を受けながら、2022 年後半の販売に向けてフルコミットメンバー 7 名で製品開発を進めている。



氏名 河野健一
Kenichi Kono
所属 株式会社 iMed Technologies
役職 代表取締役 CEO

医師（脳血管内治療指導医、脳神経外科専門医）。東京大学理学部数学科卒、京都大学医学部卒、グロービス経営大学院卒（MBA）。16 年間の病院勤務で脳梗塞やくも膜下出血などの手術を経験した後、現場の課題を解決するために起業し、手術支援 AI を開発中。世界に安全と安心の手術を届けることを目指している。



2019 年 4 月に起業し、脳梗塞やくも膜下出血などに対する脳血管内手術（カテーテル手術）を支援する手術支援 AI の開発を行っている。それにより、患者さんを救い、世界に安全と安心の手術を届けることを目指している。

代表の河野が脳神経外科医師であり、現場を長年経験し、今でも現場からの距離が近く、人的ネットワークもあることが強みである。現在ではフルコミットメンバーが 7 名と増え、研究開発に邁進している。

まず、国内から製品を出し、US や EU などの海外に展開していくことを目指している。

株式会社 Raise the Flag.

「視えない」を「わかる」にシフトする。 視力に代わる感覚デバイス「SYN + (シンプラス)」開発

視覚に障がいのある子供の帰りを毎日ハラハラしながら待っている A さん、グラスを倒すコトを恐れて人前では飲み物を飲まない全盲の B さん、「視えない夫なんて要らないだろ」と病気の治療を拒んでいた C さん。今日は、そんな僕の友人たちのために発表させていただきます。

視覚障がい者の事故やケガは後を絶たず、障がいの特性により生活における QOL は健眼者と比べ著しく低い。その為に多額な医療費負担や音響信号機などの設置に対する社会コストを必要としています。

それでも問題が解決されていないのは、視力に頼らず環境を認知する方法がないからに他なりません。

それらの問題を弊社開発中製品「SYN +」を普及させるコトによって解決いたします。

「SYN +」は視覚に頼らず「正確に」「感覚的に」周囲の環境を認知できる機能をコアに、生活における全てのシーンにおいて単独で対処できる機能を搭載している次世代型デバイスです。世界を 1 歩、前進させます！



□ 7 FUNCTIONS of the SYN + □

1. 周囲に存在する障害物・落差までの距離、存在する方向が判る
2. 知りたい対象物の形や大きさ、存在する位置が「正確に」「感覚的に」判る
3. 視線先対象物の色が判る
4. テキストの読み上げができる
5. 他者と視野の共有+会話ができる
6. 特定のタグを読み上げる
7. 録画機能・再生機能





氏名 **中村 猛**
Takeshi Nakamura
所属 **株式会社**
Raise the Flag.
役職 **代表取締役**

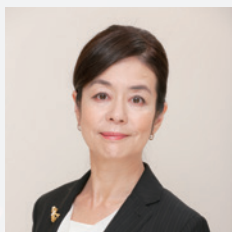
1972 年生まれ。営業職などを経て 2017 年同社設立。事業 & プロダクトデザイン担当。『「視えないコトは不便だけでなく不幸ではない」 幼い全盲の女の子の発言を聞いた時に衝撃が走った。とても嬉しかった。「不便」であれば、解消してあげられる！あの女の子が困るコトのない未来を創ろうと決めた。必ず 創る！今日を忘れないように』これは、約 4 年前にノートに走り書きしている内容です。全ては この日から始まりました。今日、その目標ようやく手が届くようになりました。掴み取るまで、女の子の満面の笑顔が見れるまで走り続けます！



視覚障がいに特化した製品・サービスの開発・製造・販売を目的として 2017 年 5 月・香川県高松市にて設立。社名である Raise the Flag. は文字通り「旗を掲げる」の意。弊社の製品・サービスを利用する方が、自分オリジナルの旗を高く高く掲げて輝いて欲しい。また、それに値する製品やサービスを提供しなければならぬ、という自戒の念も込めて名付けました。視覚が不自由な方でも任意の注量で様々な容器にお湯や水を注げる & 周囲のモノの色が判る + 6 分間までのタイマー機能をもった弊社第 1 弾製品のスマートクリップ「みずいろクリップ」が好評。

審査員

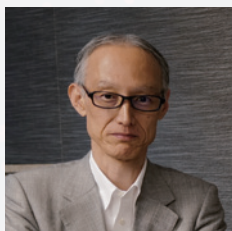
Judges



大石佳能子
株式会社メディヴァ
代表取締役社長



加藤浩晃
デジタルハリウッド大学大学院
特任教授
アイリス株式会社
共同創業者・取締役副社長 CSO



鎌田富久
TomyK Ltd. 代表



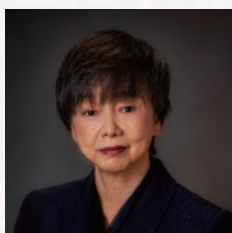
木村亮介
ライフタイムベンチャーズ
代表パートナー



下河原忠道
株式会社シルバーウッド
代表取締役



曽山明彦
一般社団法人ライフサイエンス・
イノベーション・ネットワーク・
ジャパン 常務理事



西村由美子
メディカル・ジャーナリスト



守屋実
株式会社守屋実事務所 代表取締役

パネルディスカッション

Panel Discussion

～ ヘルスケアの最前線を問う ～

特別企画のパネルディスカッションでは、ヘルスケア業界の最前線に立つ方々をゲストとしてお迎えし、最終プレゼン審査に対する感想・講評、今後のヘルスケアベンチャーの注目領域・VC 業界の潮流などについて議論します。



青木武士

株式会社キャピタルメディカ・ベンチャーズ 代表取締役



杉本亜美奈

fermata 株式会社 CEO



福島智史

株式会社グロービス・キャピタル・パートナーズ ディレクター



本郷有克

株式会社慶應イノベーション・イニシアティブ 執行役員



上田悠理 (モデレーター)

Healthtech/SUM 統括ディレクター (メドピア・日経新聞共催)
株式会社 Confie 代表取締役社長
医療法人向生會 理事長

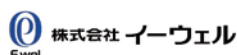
Healthcare

サポート団体

Supporters



あずさ監査法人



大阪産業局



サポート団体

Supporters

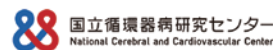
OLYMPUS



Kao



Co
STUDIO



JAFECO



サポート団体

Supporters

01Booster

ZENKOUKAI
social welfare corporation



CMI Partner in Healthcare
センチュリーメディカル株式会社

sojitz

Sociotank



daiDO 大同生命



竹田印刷株式会社



TNP
TECHNOLOGY NETWORK PLATFORM

(株式会社 TNP スレッズオプライト)

TNP
TECHNOLOGY NETWORK PLATFORM

(株式会社 TNP パートナース)

DG Daiwa Ventures

DEEP(ORE)



TOYOTA

サポート団体

Supporters



NICORIO



・HAKUHODO・

阪急阪神ホールディングス株式会社



PHILIPS



Co.Tomorrowing
MACNICA



mamoru²
We live for your "lives"

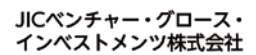
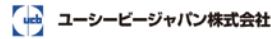


MIZUHO



サポート団体

Supporters



連携イベント

Collaboration events



日経クロスヘルス EXPO 2021

2021/10/11 - 22 オンライン
<https://expo.nikkeibp.co.jp/xhealth/online/>



WOMB Business Incubator

<https://womb.site/>



BioJapan 2021

2021/10/13 - 15 パシフィコ横浜
<https://jcd-expo.jp/ja/>



healthTECH JAPAN 2021

2021/10/13 - 15 パシフィコ横浜
<https://jcd-expo.jp/ja/>



LINK-J

通年 リアル・オンライン・ハイブリッド
<https://www.link-j.org/>



01Booster Conference

2021/12/7 - 8 オンライン
<https://conference2020.01booster.com/>



J-Startup

J-Startup Hour

毎週木曜日 18:00 ~ 19:00
 虎ノ門ヒルズビジネスタワー / オンライン
<http://venturecafe-tokyo.org/j-startup-hour/>



デジタルヘルスコネクト

<http://www.dhconnect.jp/>



MEDIC

通年
<https://med-device.jp/>



ジャパン・ヘルスケアベンチャーサミット (JHVS) 2021

2021/10/13 - 15 パシフィコ横浜
<https://www.jhvs2021.jp/>



MEDISO

通年 オンライン
<http://mediso.mhlw.go.jp/>



ヘルスケア IT 2022

2022/2/8 - 10 東京ビッグサイト
<https://www.care-show.com/healthit/>



ウェルビーイング エキスポ&カンファレンス

2021/11/4 - 5 オンライン
<https://www.wellbeing-expo.com/>



ウェルネスバレー版アイデアボックス活動 2021

通年 愛知県大府市・東浦町
https://www.city.obu.aichi.jp/wv/wv_info/1005998/1011819/index.html



HVC KYOTO 2021

2021/7/2 (ポストイベント: 12/14 ほか)
 京都リサーチパーク / オンライン
<https://www.krp.co.jp/hvckyoto/>

連携イベント

Collaboration events



第4回メドテックグランプリ KOBE
2021/10/9
神戸大学先端融合研究環境総合研究拠点
コンベンションホール
<https://techplanter.com/medtech2021/>

Colette Times

Colette Times
ウェブマガジン
<https://coletteimes.com/>



Healthcare innovation Design
Entrepreneurship Program (HiDEP)
2021/7/7 - 12/1 オンライン講座
<https://ku-med-device.jp/hidep/>

次世代ヘルスケア
プロジェクト 2021

次世代ヘルスケアプロジェクト 2021
2021/11/24 - 26 東京ビッグサイト
<https://jma-kkp.com/>



Healthtech/SUM
2021/12/2 - 12/3
日本橋三井ホール / 日本橋ライフサイエンスハブ /
オンライン
<https://www.healthtechsum.jp/>



EY 新日本 企業成長サミット 2022
全4回開催 オンライン
2021年10月, 12月, 2022年3月, 6月
https://www.ey.com/ja_jp/webcasts/2021/10/ey-assurance-2021-10-27



X-DOJO 2021
2021年8月 - 12月 日本橋
<https://x-vc.jp/xvc2021/>



MUFG ビジネスサポート・プログラム
Rise Up Festa
<https://www.bk.mufg.jp/houjin/festa/>



慶應義塾大学医学部主催
第6回健康医療ベンチャー大賞
2021/12/19
オンサイト / オンラインのハイブリッド開催
<https://www.keio-antre.com/>



inochi WAKAZO Forum 2021
-YOUNG Living Lab for our "inochi"-
2021/11/21 オンライン
<https://inochi-miraexpo.com/>



第3回ヘルスケアベンチャー大賞
2021/10/29 オンライン
<https://www.ko-karei.com/healthcare-v/>



Japan Healthcare
Business Contest

2022



Healthcare Innovation Hub（通称：InnoHub）は、2019年7月に設立された、ヘルスケアおよびライフサイエンスの分野に関連する、企業や団体、創業前の個人等からの相談をワンストップで受け付ける相談窓口です。

InnoHubで受け付ける相談内容は幅広く、資金調達（補助金・助成金を含む）や人材確保、実証実験の実施、営業販路拡大、海外展開など多岐に渡ります。また、相談内容に応じて、同分野でベンチャー企業等の支援を行っている個人である「InnoHub アドバイザー」や、事業会社・団体等である「InnoHub サポーター団体」の紹介を受けることが可能です。同時に、ヘルスケア関連のイベント等と連携し関連情報提供も行い、多面的な支援を提供することでヘルスケア・ライフサイエンス分野のエコシステム構築を目指しています。

InnoHubでは、ベンチャー企業等の相談者に対して支援を行う「InnoHub サポーター団体」を随時募集しています。InnoHub サポーター団体は、InnoHub や InnoHub アドバイザーを介して相談者とのマッチング機会を得ることが可能です。加えて、他の InnoHub サポーター団体や InnoHub アドバイザーとのネットワーク構築や、ヘルスケア関連のイベント情報を提供いたします。

【お問い合わせ先】

Healthcare Innovation Hub

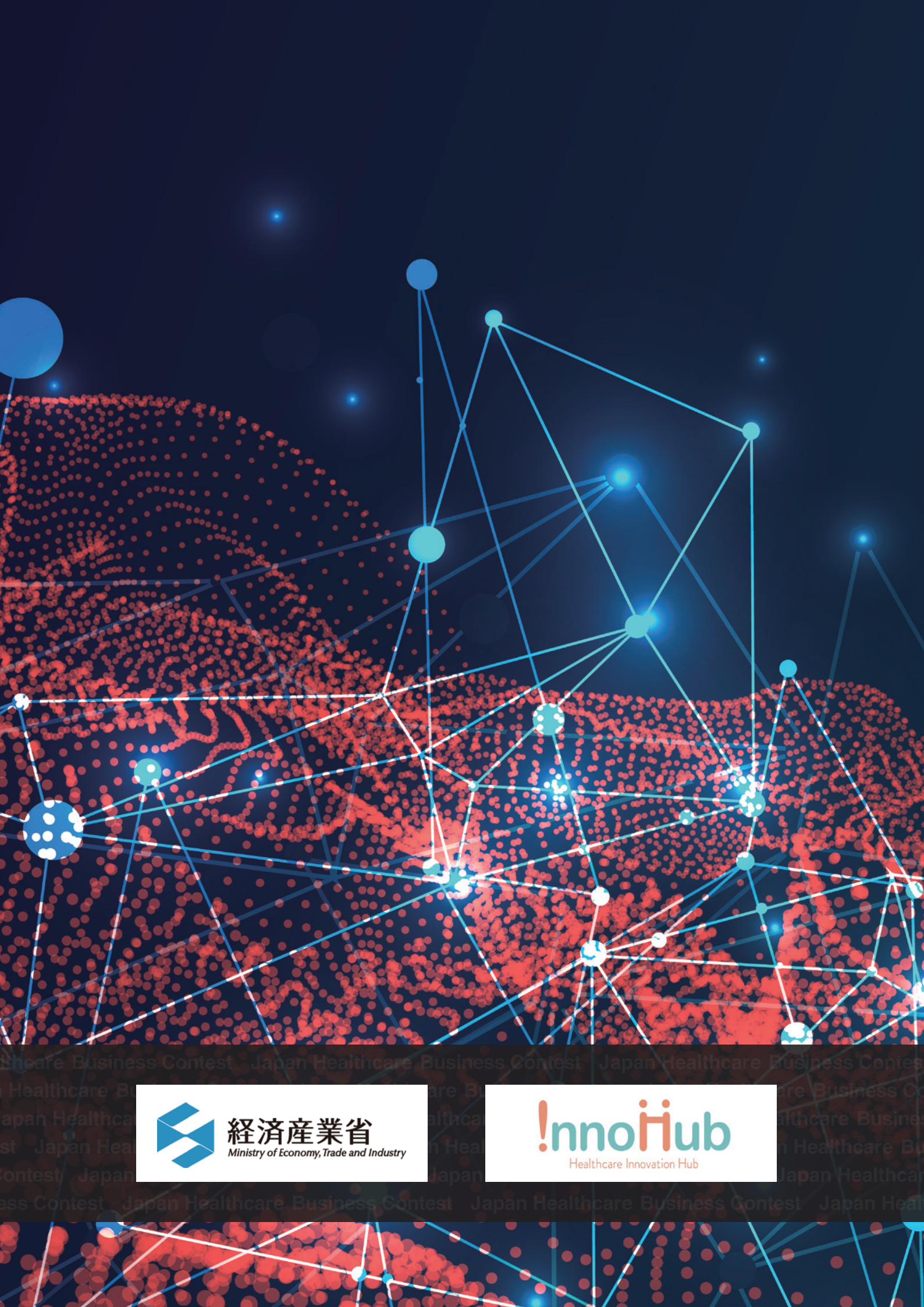
（運営受託者：株式会社三菱総合研究所）

<https://healthcare-innohub.go.jp/>

Healthcare

MEMO

Healthcare



経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

!nnoHub
Healthcare Innovation Hub